

研究・調査報告書

報告書番号	担当
2 2 4	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Indicators of sense of coherence and alcohol consumption-related problems: the 2000 U.S. National alcohol survey 首尾一貫感覚の指標と飲酒に起因する問題について：全米アルコール調査2000	
執筆者	
Tobamidanik L, Zabkiewicz D.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Subst Use Misuse. 2009;44(3):357-73.	
キーワード	
首尾一貫感覚、飲酒関連問題、アルコール依存、社会的重大性、健康生成モデル、飲酒、問題の無い飲酒、リスクファクター、レジリエンス	
要 旨	
<p>この論文は4,630名の現在飲酒者からなる全米アルコール調査2000から首尾一貫感覚(Sense of Coherence, SOC)と飲酒に起因する問題の関連性を評価するものである。3項目版SOCスケール、15項目社会的重大性スケール、DSM-IVアルコール依存を評価した。ロジスティック回帰の結果では、強い首尾一貫感覚は重大性や依存が報告されないことと有意に関連していた。この結果から全く問題の無い飲酒について調査するためには理論に基づいた手法を用いることの重要性が強く示された。首尾一貫感覚を強める介入を発達させることは将来の研究上の注目を集めるだろう。併せて、本研究の限界も示した。本研究は米国立アルコール乱用・依存症研究所(National Institute on Alcohol Abuse and Alcoholism)からの国立薬物アルコール研究センター(National Drug and Alcohol Research Centre)助成金による。</p>	